

【組織理念】

私たちの組織理念は、

「Vision:私たちの目指す社会」

「Mission and Purpose:私たちの使命・存在意義」

「Values and Credo:私たちの信条（強み）・行動指針」 の3つの要素で構成されています。

私たちは、創設者である故福島政一夫妻の「困っている人と共に生きる」という思い、そして福島一雄前理事長のリーダーシップの元で進められてきた事業展開への思いを大切に、これからも成長し続ける組織づくりに努めます。すべては子どもたちのために。

「Vision:私たちの目指す社会」

- ・すべての子どもたちが未来に希望を持てる社会の実現

私たちが目指す社会は、「すべての子どもたちが未来に希望を持てる社会」です。

すべての子どもたちが自分らしく生きていけること、そして、子どもたちにとって希望の持てる社会であること。そのような、社会の実現に貢献します。

「Mission and Purpose:私たちの使命・存在意義」

- ・社会的養護を必要とする子どもたちの最善の利益の追求
- ・子どもの福祉を取り巻く社会課題の解決への貢献

私たちは、子どもたちの成長する力を信じます。

私たちは、多様な個性が尊重される「日常」という安全な営みを保障します。

そして、子どもが未来に自分らしい希望を見出せるよう共に生きます。

私たちは、どのような状況にある子どもでも、権利が保障され、健全に成長していけるよう、子どもの福祉を取り巻く社会課題の解決にも積極的に貢献します。

それらが、私たちの使命であり、存在意義です。

「Values and Credo:私たちの信条（強み）・行動指針」

Values and Credo は、6つのバリューと17のクレドで構成されています。

ビジョンやミッションを達成するための私たちの信条（強み）であり、行動の指針となるものです。

Value.1 利用者の尊重

共生の精神に則り、利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスを提供します。

Credo①：子どもの権利を擁護しよう

Credo②：養育の質を向上しよう

Credo③：子どもの生活環境を向上しよう

Value.2 自立支援

利用者の持つ能力に応じて、自立した日常生活を営むことが出来るよう支援します。

Credo④：子どもの自尊心を回復させよう

Credo⑤：夢の実現を応援しよう

Credo⑥：退所後の安定した暮らしに貢献しよう

Value.3 安心・安全な生活

利用者や家族が安心・安全な暮らしができるように支援します。

Credo⑦：「共に」の精神を



Credo⑧：地域との繋がりを感じられる暮らしを

Credo⑨：暮らしに笑顔を

Value.4 人材育成

職員の成長を促す取り組みを行い、資質と専門性の向上をはかります。

Credo⑩：多職種が力を合わせてチーム支援

Credo⑪：働き甲斐のある職場づくり

Credo⑫：社会にも貢献できる人材を育成

Value.5 信頼される組織運営

社会に開かれ、信頼される組織運営を行います。

Credo⑬：社会に開かれた組織運営を

Credo⑭：健全な財務規律を確立しよう

Credo⑮：信頼と協力を得るための情報発信を

Value.6 地域との連携

地域住民又はその自発的な活動との連携及び協力を行う等の地域との交流に努め、地域の福祉サービスの拠点を目指します。

Credo⑯：施設機能の地域への還元

Credo⑰：SDGsを推進しよう

<KAGs ロゴマーク>



※17のCredoについては、「Kibonoinoe Action Guidelines(略:KAGs)」と呼称して使用。また、17の項目それぞれに長期ビジョンと達成のためのポイントを設定し、実現を目指した取り組みを行う。

<希望の家ロゴマーク>



中心の笑顔の太陽が希望、建物は「お家(いえ)」で、「きぼうのいえ」を表現しています。

共生会のロゴマーク(下段葉っぱのロゴ)を下段に用いることで、その歴史や精神が土台にあることを表しています。

「わたしらしさ、あなたらしさ」という共生会のキャッチフレーズは、多様な色と形の木々が表しています。

施設から飛び立つ鳥は一羽ではありません。必要に応じ継続的につながり続けていく職員の覚悟と、一人ではないというメッセージを込めています。

そして、これからも地域に開かれ、地域の子育て支援のニーズに応えられる施設を目指すことを開かれた扉、鳥の親子が表しています。



わたしらしさ、あなたらしさを大切に

【運営の目的と基本方針等】

1. 運営目的

児童福祉法、児童憲章、子どもの権利条約の精神を理念として社会的養護を要する子どもに対して『子どもの最善の利益』のために、その自立心を損なうことなく、心身ともに健全な人間として、家族再統合、社会参加できることをめざして日々の援助を行うことを目的とする。

2. 基本方針

- ① 男女別2つのユニットと、男女混合5つのグループホームにおいて、家庭的養護を実践する。
- ② 温かい愛情と潤いに満ちた人間関係の中で、安心と信頼にあふれる生活環境を作り、子ども同士の連帯感を強め、集団を大切に、子ども一人ひとりが本来持っている力が伸びるように努める。
- ③ 入所児童とその家族を支援の対象としたソーシャルワークを実践する。
- ④ より家庭に近い養育環境を必要とする子どもは養育家庭に委託する。
- ⑤ 家庭生活の体験の機会としてフレンドホームを積極的に活用する。
- ⑥ 治療的養育環境を整備し、子どもの心の回復と安定を図る。
- ⑦ 地域コミュニティーにおいては、社会福祉分野の貴重な資源としての機能を如何なく発揮する。

3. 外部監査

定期的に公認会計士による外部監査を受ける。会計、運営に関する分析から課題を抽出し改善方法を探る。

4. 第三者評価（IMS ジャパン）

施設運営や養育、支援の内容について第三者による評価を受ける。評価結果については職員間で共用し、評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にできるようにする。



【令和6年度 事業計画 重点項目】

Value.1（基本方針）利用者の尊重

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<子どもの権利擁護の推進> ・子どもの権利に対する、職員 の意識向上の取り組みを さらに推進する	<ul style="list-style-type: none"> グループホーム支援員等の巡回や働きかけにより、権利擁護の推進と、支援の標準化を図る。 職員会議等で子どもの権利擁護に関する話題提供、施設職員としてのあるべき姿などを昨年度に引き続き繰り返し伝える。 昨年度に引き続き、グループ会議内で、子どもの権利にロールプレイを行い、対して職員が主体的に考え、話し合える機会を設ける。 グループ間職員交流の継続や、他事業所間の交換研修の機会をつくる（視野を広げる）。 	第三者評価利用者アンケート設問9:81%以上（2024:79.5%） (※1)	GH支援員 バックアップ職員 ケアワーカー 管理職	高
<生活環境の向上> ・子どもたちの暮らしの場 の生活環境を向上する	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境の整備について、定期的に衛生チェックシートを活用し、一人ひとりの職員の意識をあげる。 衣食住を適切に保障することはもちろんのこと、経年で劣化しつつある家具什器については、早めの買替を推奨する。 暮らしにぬくもりや愛情を感じる配慮や四季や文化を感じる取り組みについて情報共有をすることや、考える機会を持つ。 	第三者評価利用者アンケート設問5:72%以上（2024:69.2%） (※2)	ケアワーカー 栄養士 GH支援員 バックアップ職員	中
<意見表明の推進> ・子どもの意見表明を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、子どもによる自立支援計画書策定へ参画してもらう。 日常の些細な選択や決定を場面を意図的につくっていく。 各種行事の企画等にも子どもたちに参画してもらう機会をつくる。 	第三者評価利用者アンケート設問14:60%以上（2024:56.4%） (※3)	ケアワーカー プロジェクト 自立支援担当職員 苦情対応担当 管理職	低

※1 あなたは、職員があなたの気持ちを聞いてくれて、大切にしながら対応してくれていると思いますか

※2 あなたは、ここの共有スペースは清潔で整理されていると思いますか

※3 あなたが困ったことや嫌だと感じたこと、要望や希望を伝えるとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか

Value.2（基本方針）自立支援

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<生い立ちの整理> ・施設内における生い立ちの 整理のあり方を整理	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は自立支援委員会やプロジェクト内で生い立ちの整理について検討を行った。 今年度は昨年度の検討をベースに、（個別対応を基本としつつも）施設内の標準的な生い立ちの整理のあり方を整理・共有する。 	標準的なあり方を整理し、共有できたか	自立支援委員会 プロジェクト ケアワーカー	高
<自立支援の標準化> ・自立を支援するための選択 肢や情報等を見える化する	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援の標準化のために、各種情報や選択肢、考え方等を養育ハンドブックに反映する。 	養育ハンドブックへの反映を通して、組織の学びとしているか	自立支援担当職員 自立支援委員会 ケアワーカー	中
<退所者支援強化> ・退所者への支援を強化する	<ul style="list-style-type: none"> 公式LINEを活用した情報発信をスタートし、有効活用する。 退所者が集まれるような場を検討し、イベント等を企画・開催する。 	退所者にとって繋がりがりやすく、また有益な情報等が配信される	自立支援担当職員 自立支援委員会 プロジェクト	低

Value.3（基本方針）安心・安全な生活

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<「共に」の精神を> ・共生会の「共に生きる」精神を 問い直し、あるべき姿 について理解に努める	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの立場に立って理解する、物事を考えるという養育の基本を繰り返し伝え続けると共に、グループ会議内で考える機会をもつ。 何気ない場面でも子どもたちと共に過ごすことを大切にする。 各グループにおいて、季節の行事やイベント等、子どもたちの意見を尊重しながら計画につなげる。 	第三者評価職員アンケート設問1-1-1-1 ②:90%以上 (2024:87.3%) (※1)	ケアワーカー 栄養士 GH支援員 バックアップ職員	高
<あたたかな日常> ・あたたかな雰囲気づくり、 楽しい雰囲気づくりに努める	<ul style="list-style-type: none"> 職員は子どもたちと生活を共に生きていく存在として、対等な関係であることを意識する。 子どもたちと一緒に、あたたかさや楽しさを追求するグループ運営に努める。 	第三者評価利用者アンケート設問 [1] 良い・少し良い: 60%以上 (2024:53.9%) (※2)	ケアワーカー 栄養士 GH支援員 バックアップ職員 管理職	中
<服薬管理の徹底> ・服薬管理マニュアルに基づ いた運用の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 看護師の巡回によるチェック体制をさらに強化する。 文書管理システムを用いたチェック機能の効果的活用。 インシデント発生時には事象の分析・改善を丁寧に行い、全体周知を徹底する。 	服薬に関する大きな事故を予防	看護師 ケアワーカー	低

※1 私は事業所が目指していることを理解できている

※2 あなたはここにきて、よかったですと思いますか



わたしらしさ、あなたらしさを大切に

Value.4（基本方針）人材育成

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<p><業務整理と効率化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化・生産性の向上を図り、業務量の軽減につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務見直しのためのプロジェクトを組織化し、アンケート等も実施して現状把握に努める。 ・本体施設の業務についても棚卸しを、効率化や適切な役割分担につなげる。 ・意識改革も要すことから、リーダー会議を中心に、適宜、意見交換を行う。 	アンケートの実施と、業務効率化につながる策を検討の上で講じることができたか	プロジェクト管理職 リーダー職員	高
<p><メンタルヘルスの推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員のセルフケアの推奨等、メンタルヘルス策を講じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに支援者支援コーディネーターと外部SVを新規配置することで、支援者を支援する考えや方策を浸透させる。 ・支援者支援養育論の外部SVIによる研修を開催。 ・セルフケアのプロジェクト内や職員の集い等を通して職員個々のセルフケアにつながる取組を進捗させる。 	精神的な負荷等による退職者の減少	支援者支援コーディネーター プロジェクト職員 職員の集い担当者	中
<p><人材確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな人材確保策を講じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保につなげるため、新たにインターンシップを企画・導入する。 ・新たに作成した求職者向けパンフレットの効果的な運用。 ・施設案内動画の作成を検討する。 	職員の最大配置を目指した、人材確保ができたか	管理職 人材確保担当者	低

Value.5（基本方針）信頼される組織運営

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<p><広報力の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼と協力を得るための情報発信を積極的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報担当者の業務過多な状況を緩和するため、一部外部委託化を検討・依頼。 ・施設広報のみならず、資金調達策や支援者コミュニケーション等、ファンディングの考えや取組をより取り入れていく。 ・支援者コミュニケーションについては、具体的なガイドラインを作成し、役割分担をしながら運用する。 	取組計画の実行の有無	広報委員会 それぞれの担当者 管理職	高
<p><保護者との協働></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所している子どもの保護者との協働関係を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時の施設説明を丁寧に行い、保護者と協働して子どもの利益を実現できるような関係づくりに努める。 ・保護者への包括的同意書面の作成と運用を検討する。 ・自立支援計画書の策定時には、（ケースによって）保護者の意向確認のみならず、施設の取組や考え等についてすり合わせを行い、共通認識を持てるように努める。 	取組計画の実行の有無	家庭支援専門相談員 管理職	中
<p><紹介動画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設紹介動画の作成を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・広く社会に発信できるような施設紹介動画の作成を検討し、作成につながるよう取組を行う。 	取組計画の実行の有無	プロジェクト 広報委員会 管理職	低

Value.6（基本方針）地域との連携

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<p><自治体との連携強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイ・トワイライトステイ事業の区との連携強化と体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝と夕方の送迎要因の雇用や応援体制を整備し、断続勤務シフトを減少させる。 ・受け入れ体制や利用の枠組み等について、自治体側の理解を得ながら利用者の安全・安心を守れるように連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画内容の実行有無 	ショート担当職員 ホームスタート担当 栄養士 管理職	高
<p><ホームスタートの取組推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームスタート事業が必要な人に届くよう、広報力を強化して利用に繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSも効果的に活用し、ホームスタート事業の発信を開始する。 ・「親子ふれあいサロンきぼう」の取組については公式LINEも活用して利用のしやすさに繋げる。 ・よりわかりやすく、一目で理解できるような手取りやすいチラシを新たに作成する。 ・活動していない（できない）ボランティア（ビジター）の意向確認を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームスタート事業の年間利用者の増加 	ホームスタート担当 職員	中
<p><地域支援の新たな展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズに合致した新たな地域貢献の取組を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の一つとして、社会的養護自立支援拠点事業の実施の可能性を探るため、実施団体の会合等にも参加し、現状を把握するとともに連携を深める。 ・葛飾区との連携を強化し、地域に求められる地域支援の可能性を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護自立支援拠点事業実施団体との会合への参加 ・ニーズ把握と地域の子育てサービスへの貢献 	施設長 自立支援担当職員	低

